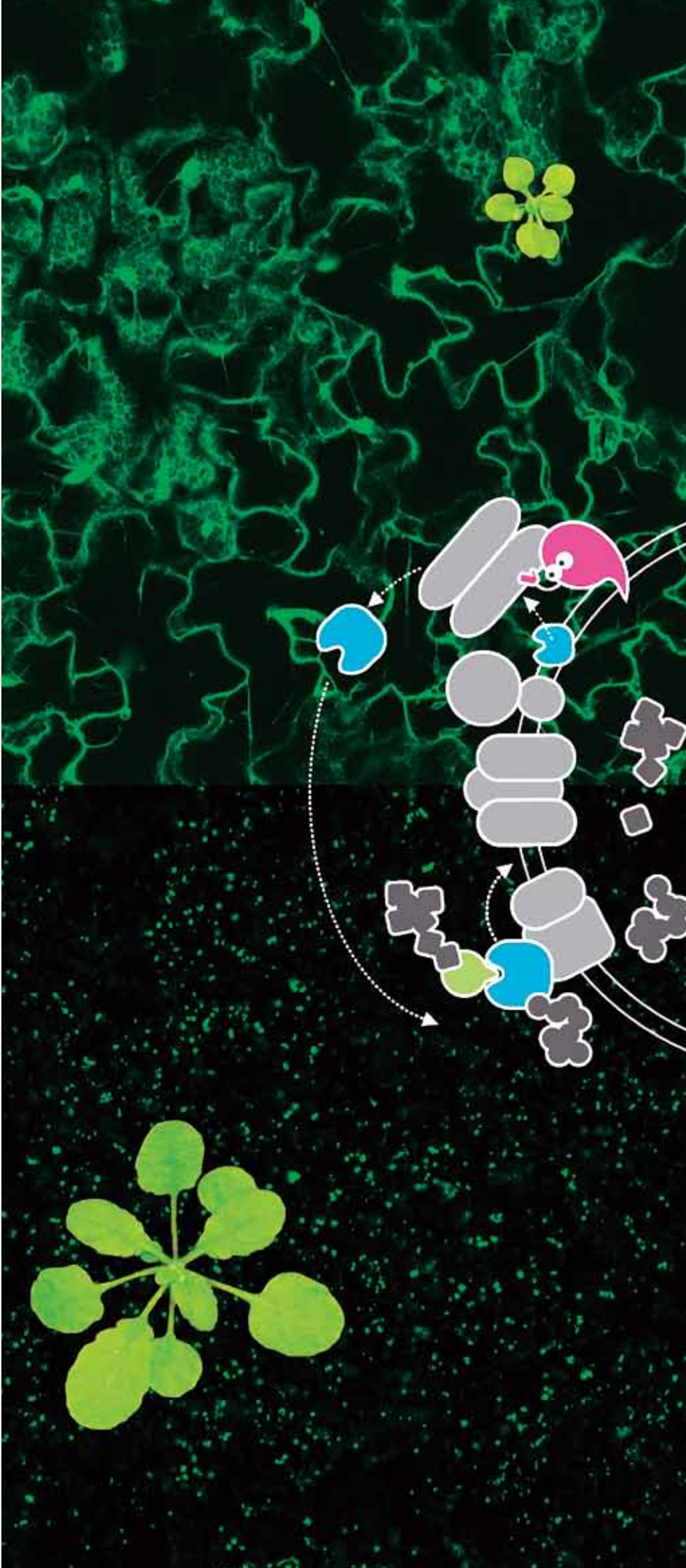




NEWS LETTER

# PERCEPTIVE PLANTS



新学術領域研究

「植物の環境感覚…刺激受容から細胞応答まで」

領域ニュース

## 1 領域代表挨拶

長谷あきら (京都大学)

## 2 公募研究紹介

## 9 イベント報告

### 第二回班会議報告

吉原静恵 (大阪府立大学)

### 第三回班会議報告

日出間純 (東北大学)

### IBC2011参加報告

石崎公庸 (京都大学)

### AOCP2011参加報告

岩田達也 (名古屋工業大学)

## 17 若手研究紹介

### 冷やっとするのが苦手な葉

角浜憲明 (神戸大学)

## 18 総括班からの報告

## 20 研究成果報告

## 21 イベントカレンダー

## 21 編集後記

### 表紙の説明

GFP とペルオキシソーム移行シグナルの融合タンパク質 (GFP-PTS1) によってペルオキシソームを可視化した野生型シロイヌナズナの葉では粒状のペルオキシソームが多数観察される (蛍光写真: 下)。一方、ペルオキシソームへのタンパク質輸送効率が低下する *APEM9* 遺伝子抑制株 (*apem9i*) では GFP 蛍光がペルオキシソームだけでなくサイトゾルでも観察される (蛍光写真: 上)。*apem9i* (植物体: 上) ではペルオキシソームの機能が低下しているため植物体の生育が野生株 (植物体: 下) と比較して著しく低下する。これまでの解析から、*APEM9* はペルオキシソーム膜において、タンパク質輸送に必要な因子をペルオキシソームに局在させることが明らかとなった (模式図の説明は研究成果参照)。